

北はりまエコニュース



ハリーン通信

Vol.

7

兵庫県北播磨県民局県民室環境課

CONTENTS

平成21年度の取り組み



廃棄物対策

ごみ2割減量北はりま大作戦



北はりま絆プロジェクト

エコフェスティバル



環境学習・教育

加古川流域交流フォーラム

環境学習コーディネーターだより



寄稿



謎を解き明かす手だてとして-鳥類標識調査から見てくること-

山階鳥類研究所標識調査協力調査員 飛田 良平
(西脇市動植物生態調査研究グループ員)



「市民が創る環境のまち“元気大賞 2009”」特別賞を受賞して

兵庫県立三木北高等学校環境研究部E CO-P



Information



家庭でできる地球温暖化対策

「うちエコ診断」を受けてみませんか?



浄化槽の管理はしっかりと!!

ごみ2割減量北はりま大作戦を推進しています！

北播磨県民局が今年度から進めている「ごみ2割減量北はりま大作戦」。平成23年度末に、北播磨地域の1人1日あたりごみ排出量を、対平成18年度比で2割以上削減（1,150g→840g）し、環境と調和した循環型社会の形成と美しい北播磨づくりをめざします。

平成21年10月には、その推進組織として、県民・事業者・行政で構成する「ごみ2割減量北はりま大作戦推進会議」を設置しました。多様な主体の参画と協働のもと、ごみの減量やリサイクルの促進、適正処理の徹底の推進に取り組んでいます。

みんなでチャレンジ☆
ごみ2割減量北はりま
大作戦！！



「ごみゼロ北はりまをめざして！一事業系ごみ減量セミナー」を開催

平成22年2月16日（火）、三木市立市民活動センターで事業系ごみ減量セミナーを開催しました。

当日は、神戸山手大学現代社会学部環境文化学科教授の中野^{なかの}加都子^{かつこ}先生をお迎えし、「ごみの減量に向けた現状と課題」をテーマにご講演いただきました。また、県環境整備課による廃棄物処理法や明石市資源循環課による事業系ごみの減量方法に関する講義、川崎重工業株式会社によるごみ減量をはじめとした環境への取り組みについての発表、県大気課による産業・業務部門における地球温暖化対策についての説明も行われました。



中野 加都子先生による講演

セミナーには、約80名の方々にご参加いただき、工場・事業所でのごみの減量やリサイクルについて改めて考え、知識を深める場となりました。

事業系ごみは、北播磨地域のごみ排出量の約3分の1を占めることから、地域全体でごみの減量に取り組むためには住民の皆さんだけでなく、事業者の方々の協力も必要不可欠です。今後も、役立つ情報を提供していきますので、住民の皆さん、事業者の皆さん、ごみの減量やリサイクルの推進にご協力ください！

今日からできる！ごみ2割減量への取り組み

- ☆ 買い物にはマイバッグを持参しましょう。
- ☆ 詰め替え商品や量り売り、ばら売りの商品を選びましょう。
- ☆ 壊れた家具やおもちゃなどは修理して、大切に使いましょう。
- ☆ 材料は使える限り無駄なく使うなど、生ごみが出ないように調理方法を工夫しましょう。
- ☆ 生ごみを出す前はしっかり水きりをしましょう。
- ☆ 決められたごみの出し方、分別の仕方をきちんと守りましょう。
- ☆ 空き缶や空き瓶、新聞紙や雑誌などはリサイクルしましょう。



大盛況！

エコフェスティバル



北播磨県民局では、「家族の絆」「地域の絆」「生活（くらし）の絆」の3つの絆を深め、共に支え合う元気で安全・安心な北播磨づくりをめざす「北はりま絆プロジェクト」に取り組んでいます。

「絆を深める月間」である11月の14日（土）、15日（日）には、県立フラワーセンター（加西市）において、「北はりま絆フェスティバル」（北播磨じばさん元気市、エコフェスティバル、健康フェスティバル）を開催しました。2日間とも暖かい天候に恵まれ、約2万人の参加者がありました。エコフェスティバルにもたくさんの人々が訪れ、高い関心を示していただきました。

パネル・写真展示

「北播磨の自然環境」、「リサイクルとごみ減量」、「地球温暖化防止」のテーマごとにブースを分けて、パネルやリサイクル作品などを展示するとともに、ソーラーパネルを使った模型の体験や環境省作成の「エコ学習トランク」による実験など体験型の展示も実施しました。



エコチェック

日常生活に「エコ」がどれだけ定着しているかをチェックし、合計点数により、エコ見習いからエコ初級、中級、上級、そして、満点の方をエコ博士として認定しました。

2日間で約500人に参加していただき、中にはエコ博士も誕生するなど、エコ生活への関心は想像以上に高まっていると実感しました。



環境クイズラリー

会場内に設けた8ヶ所の環境クイズに挑戦しながら、環境への意識を高めるクイズラリーを実施しました。多数の親子に参加していただきクイズの正解者には、環境グッズなどが当たるお楽しみ抽選会も大好評でした。



エコ工作教室

LEDのイルミネーションで装飾した「エコハウス」内に、神戸新聞社の協力を得て、はりまの貴重種の写真パネルを展示するとともに、親子で工作を楽しみながら、太陽光発電や燃料電池について学ぶ「エコ工作教室」を実施しました。

はばタン・ハリーンとの交流会

北播磨の環境マスコット「ハリーン」と兵庫県のマスコット「はばタン」が子供たちと交流し、記念撮影を行いました。

平成17年に「ごみゼロ北播磨！」のマスコットキャラクターとして、全国に公募して誕生したハリーンも、これまで数々のイベントで活躍し、すっかり北播磨の子供たちの人気者に成長しました。

今回も、多くの子供たちに囲まれ、笑顔と歓声に包まれた楽しい交流会となりました。





加古川流域交流フォーラムを開催しました！



平成21年12月5日(土)、県立嬉野台生涯教育センターにおいて、「地域の絆で豊かな森・川・海の再生をめざして」をテーマに、加古川流域交流フォーラムを開催しました。このフォーラムは、加古川の上流域から下流域までの住民や関係団体等が交流して、活動成果の発表や情報交換を行うことで、豊かな森・川・海の再生に向けた取り組みの一層の推進を図るため、平成18年度から東播磨・北播磨・丹波の3県民局の持ち回りで開

催されています。

当日は、^{たきっこ}滝呼ソーランの力強いよさこい踊りがオープニングを飾り、「水辺を美しくする運動啓発ポスターコンクール」の表彰式に続いて、兵庫県立大学自然・環境科学研究所所長・教授の江崎 ^{えざき} 保男先生による「川は森に発し、海に下る」をテーマとした講演、加古川流域の学校、活動団体等の森・川・海の再生につながる環境学習・活動の発表が行われました。



滝呼ソーランのよさこい踊り



江崎 保男先生による講演

赤・黄・緑パワーで心も体も元気いっぱい

加西市立賀茂幼稚園



食べ物への興味・関心を広げ、自然の恵みのありがたさを感じることですべての命ある自然を大切にすることが育つよう、いろいろな食材に触れたり菜園活動に取り組んだり、五感を使った実体験を重ねています。

食べ物への興味・関心を広げ、自然の恵みのありがたさを感じることですべての命ある自然を大切にすることが育つよう、いろいろな食材に触れたり菜園活動に取り組んだり、五感を使った実体験を重ねています。

とりもどそうホタルの住む川を

加東市立東条東小学校



東条川で、10年ほど前から川の生態調査や水質検査、ホタルの生息調査等を実施しています。生活排水が川を汚す大きな原因であることを発見し、夏休みには全員が各家庭で水を汚さない取り組みを行いました。

加古川流域の学校、活動団体等の取り組み

農家との対話からわかったスミリンゴガイの食害を防ぐ方法

加古川市立神吉中学校



いスミリンゴガイの食害を防ぐ方法を発見しました。

校区内の用水路・水田等を活動フィールドに、スミリンゴガイから水辺の環境を考える研究を行っています。農家との対話を通して、農薬をできるだけ使わな

環境保全活動における地域とのかかわりあい

蜚の住む加古川にしよう運動推進協議会



氷上IC付近に、地域住民が集い憩えるコミュニティオアシスを形成し、環境学習や観光事業の活性化を目指して、地元自治会の協力のもと、加古川の生態系保護と蜚の成育する環境保全に取り組んでいます。

環境学習コーディネーターだより

北播磨県民局県民室環境課 地域環境学習コーディネーター 笹倉 綾子

平成19年度の事業開始から本年度までの3年間で、北播磨地域の65園の保育所・幼稚園が「ひょうごっこグリーンガーデン実践事業」に参加し、花や野菜の栽培、里山や川での自然体験活動等を通して、食への興味を深めることや生き物の大切さ・自然の不思議さに気づくことをテーマに取り組みを展開してきました。

また、小学校3年生を対象とした環境体験事業は、本年度から全校での実施となり、多くの小学校が田畑や里山、水辺、地域等をフィールドに多岐にわたる活動を展開しています。

「ひょうごグリーンサポートクラブ 北播磨地域運営協議会」を開催しました。



平成22年1月25日（月）に、「ひょうごグリーンサポートクラブ北播磨地域運営協議会」を開催し、20年度の「ひょうごの環境学習・教育」の取り組み成果と課題、21年度の実施状況、今後の支援方策等について協議しました。

主な意見として、①一年間を通してテーマを明確に設定して取り組むこと、②学習を通じて地域や家庭とつながりをより深め、多世代と関わりながら活動を展開していくこと、③原体験の中から環境と生活のつながりを学び、生涯学習の一環として取り組むこと等がありました。



お母さんと一緒にさつまいものつる挿しを実施（加西市立西在田幼稚園）

アンケート調査の実施

平成19年度から21年度までのグリーンガーデン実践事業実施園を対象にアンケートを実施し、取り組み状況について調査を行ったところ、19年度実施園の80%、20年度実施園の95%が、今年度も日常的、継続的に環境学習に取り組んでいました。また、21年度実施園については、回答のあったすべての園が、来年度も引き続き環境学習の取り組みを予定していることがわかりました。

回答のあった各年度実施園の約80%が、地域住民や保護者、ボランティアグループ等の支援を受けながら共に活動しており、地域と連携した取り組みが広がっています。また、子どもたちが食べ物や自然の大切さに気づくことができたなど、取り組みに成果が見られたといった意見がありました。その一方、保育士の知識向上や活動内容のさらなる充実等が今後の課題となっています。

来年度の取り組み

県では、来年度から幼稚園・保育所での環境学習を通じて、生物多様性の保全への理解を促進することにより、幼児期から児童期への環境学習・教育の円滑な接続を図る「幼児生物多様性学習推進事業」を始めます。内容は、生物多様性保全への理解を深める体験プログラムを策定・実施する「体験プログラム開発・実践事業」や、ひょうごグリーンサポーターを新たに環境学習に取り組む幼稚園・保育所に派遣し、職員研修の講師や幼児指導のサポートを行う「ひょうごっこグリーンガーデンサポート事業」等です。これらの推進にあたっては、今後も地域やサポーターの協力が不可欠となります。



はばタンとのお約束「水を大切に使おう！」
（多可町立松井幼稚園）

謎を解き明かす手だてとして-鳥類標識調査から見てくこと-

山階鳥類研究所標識調査協力調査員 飛田 良平
(西脇市動植物生態調査研究グループ員)

鳥類標識調査 (Bird Banding) とは、鳥の研究を専門にしている日本で唯一の研究機関である山階(やましな)鳥類研究所が環境省の委託を受けて実施している野鳥の調査です。全国にいるボランティア調査員は研究所から貸与されたカスミ網を使って野鳥を捕獲し、種名や性別、年齢などを調べて記録し、番号が刻印された標識(足環)を足に装着して放鳥します。調査の記録は研究所で一括管理されています。その鳥が再び捕獲されたり、死亡して誰かに拾われたときに足環の番号を研究所に問い合わせると、いつ、どこで放鳥された鳥であるかわかります。それによって、野鳥の渡りのコースが解明されたり、寿命がわかるわけです。



調査風景

平成17年7月24日に丹波市氷上町で足環を付けたツバメが、平成18年6月2日、フィリピンのミンダナオ島で発見されました。足環に刻印された TOKYO JAPAN の文字から問い合わせがあったそうです。氷上町で足環を付けたときはその年生まれの幼鳥だったのですが、翌年の6月にフィリピンにいたということは、繁殖のために日本に渡ってこなかったということになります。生まれた次の年は繁殖しないということでしょうか？ツバメの越冬地は東南アジアだと本から得た知識で知ってはいましたが、調査結果から判明すると、苦労が報われた思いがします。移動距離：3,155 km、経過日時：313 日でした。



ルリビタキ雄成鳥

西脇市高松町で冬季に調査していると、ルリビタキが捕獲されます。「ルリ」は漢字で「瑠璃」であり、成鳥の雄はきれいな青い色、まさに幸せの青い鳥です。ルリビタキは、本州中部以北の高山帯などで繁殖し、北播磨には秋が深まった頃に越冬のためにやって来ます。冬を越すだけなら毎年同じ場所でなくてもいいと思うのですが、昨シーズンの足環を付けた個体が同じ場所で網に掛かります。律儀にも毎年同じ場所に帰ってくるのです。こういうことがわかってくると、「この雑木林がなくなるとルリビタキが困るだろうなあ」と鳥目線で環境を見るようになります。調査をしている雑木林の隣に見捨てられた休耕

田があって、これまではセイタカアワダチソウが繁茂していました。その種子を食べるためにホオジロ、アオジ、カシラダカ、ベニマシコなどがやって来ましたが、今季はきれいに耕作されたために鳥の姿を見ることができませんでした。農家の方としてはいつまでも放置しておれないのかもしれませんが、鳥にすれば荒れた休耕田は餌が少ない冬場の食料倉庫なのです。

多くの野鳥は季節の変化に合わせて棲む場所を変えます。この季節移動を渡りと呼んでいます。いつ渡るのか、どんなコースを渡るのか、どこへ渡るのかなど、まだまだ分からないことが多くあるのです。絶滅の危機に瀕しているコウノトリやクロツラヘラサギなどに発信機を取り付けて人工衛星で電波をキャッチして居場所や渡りのコースを解明する取り組みも進められていますが、残念ながらツバメのような小鳥に付ける小形で高性能の発信機が開発されるまでは、標識調査が最も有効な謎解きの方法なのです。

「市民が創る環境のまち “元気大賞 2009”」 特別賞を受賞して

兵庫県立三木北高等学校環境研究部E C O - P

県立三木北高等学校環境研究部E C O - Pは、エコに関する「プランナー」「プレイヤー」「プロデューサー」をめざして、さまざまなアイデアを自分たちで考えては実行していくという形で活動しています。結成から4年を経て、現在では北播磨地域を中心に、3Rの推進や在来生物を保護する取り組み等、他の団体とコラボするプロジェクトにも積極的に取り組んでいます。

その活動が認められ、このたび環境ビジネスウイメン・環境省・総務省・(株)日本政策投資銀行・(株)三井住友銀行主催の一大エココンテスト eco cup japan2009 にて、ライフスタイル部門「市民が創る環境のまち “元気大賞 2009”」の大賞、奨励賞に次ぐ特別賞を受賞することができました。

この賞は、全国各地域での環境に対する先進的な取り組みのうち、「人・もの・心」の環をつなぎ、広い意味で「環境のまちづくり」をめざす実践的な取り組みや、環境に配慮した斬新かつ具体的な活動、環境活動で地域を活性化するモデルを表彰するものです。私たちは、高校生自らが明確な意思のもと、子どもたちへ出前授業などの啓発活動を行ったり、地域の人々と連携してエコで地域の活性化に取り組んでいる点、また、生徒が代わりながら継続していることが大きく評価され、今回の受賞となりました。



昨年 12 月 11 日 (金) に、東京ベイ有明ワシントンホテルにて行われた授賞式には部員を代表して部長岸本起輝が参加しました。また、受賞プランは、同年 12 月 10 日 (木) ~12 日 (土) に東京国際展示場 (東京ビックサイト) で行われた日本最大の環境展示会、「エコプロダクツ 2009」会場においても展示され、同会場内のブースにてプレゼンテーションをする機会もいただきました。

授賞式・受賞記念プレゼンテーションでは、北播磨を中心とした「環境戦隊えこびいファイブ」としての環境啓発活動、小学校・保育所での出張授業、「NPO北播磨地域づくり応援団」と協働しての環境教育プロジェクト、「花あかりの会」と協働してのカタクリ復活の取り組み、割り箸回収プロジェクト、マイうちわによる冷房抑制キャンペーン等を紹介して、身近なところから地域に根ざした問題解決を図っていこうという私たちの姿勢を訴えました。会場内でも珍しい高校生の姿に大きな関心が集まり、温かい励ましの言葉を沢山いただきました。

自分たちの発表以外にも、環境技術の最先端を実際に数多く体験したり、他の地域で頑張っておられる方々のお話を聞くことができたのは、とても楽しく、役に立つことでした。この受賞を糧に、これからも皆さんとともに、地域に根ざした環境活動を活発に行っていきたいと思います。応援よろしくお願いします。



「うちエコ診断」を受けてみませんか？

「うちエコ診断」とは、各家庭の“どこから”“どれだけ”CO₂が出ているかを「見える化」し、専門家がそれぞれの生活スタイルに合った効果的な削減プランを無料で提案するものです。

昨年度、モニター家庭を対象に試行的に実施したところ、日頃行っているエコ活動が「つもりエコ（＝ピントのずれた取り組み）」になっている場合が多くありました。例えば、自家用車と給湯がCO₂排出量の7割を占める家庭では、いくらこまめに蛍光灯を消しても大きな効果は得られません。こうした場合に有効なのは、公共交通機関の利用促進や高効率給湯器、節水シャワーの導入などです。うちエコ診断では、紋切り型ではなく、“本当にCO₂削減が期待できる”取り組みをサポートします。

対策を実施した場合のCO₂削減量だけでなく、家計への影響も分かるので、診断結果を活かして省エネを行えば、環境にも優しく、家計にもメリットがあります。身近な取り組みが温暖化防止に役立つだけでなく、光熱費などの節約にもつながるとなれば、さらにうれしいですね。ぜひ、ご活用ください！

※申込・問い合わせは、(財) ひょうご環境創造協会 太陽光発電相談指導センターまで（TEL：078-371-6000）



各家庭の状況に応じたオーダーメイドの対策を提案



浄化槽の管理はしっかりと！！

浄化槽はトイレの污水や、台所・浴室等の生活雑排水を処理するもので、美しい河川を守るために重要な役割を担っています。浄化槽法では、浄化槽の機能を維持するために「法定検査・保守点検・清掃」の定期的な実施を義務付けています。また、義務を履行しない浄化槽設置者に対し、県は必要に応じ指導をすることとなっています。



種 類	内 容	回 数	実施機関
法定検査 (2種)	水質検査等	使用開始数ヵ月後（7条検査） 年1回（11条検査）	(社) 兵庫県水質 保全センター
保守点検	機器類の点検や調整、修理等	年数回	県の登録業者
清 掃	浄化槽内の汚泥等の抜取、装置 や機器類の洗浄等	年1回	市町の許可業者

平成22年3月31日発行

兵庫県北播磨県民局県民室環境課 北播磨地域さわやかな環境づくり行動計画推進委員会

〒673-1431 兵庫県加東市社字西柿1075-2

TEL：0795-42-5111 FAX：0795-42-7535

H P：http://web.pref.hyogo.jp/area/n_harima/index.html

ハリー通信 Vol.7はいかがでしたか？ハリー通信では、みなさんからの投稿や寄稿、ご意見、ご感想をお待ちしています！ぜひ、事務局までお寄せください！

